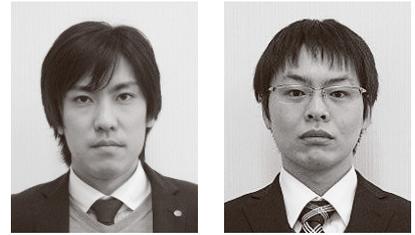


えっ!?これってわたしが春日部創れるの!?

～大学生政策提案コンテスト事業～

かすかべ未来研究所¹ あさい けいすけ えんどう ゆうたろう
浅井 恵介、遠藤 祐太郎
(春日部市総合政策部政策課)



1 はじめに

本市では、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展のために平成19年から共栄大学（春日部市）、平成22年から日本工業大学（宮代町）、平成23年から埼玉県立大学（越谷市）、平成26年から聖学院大学（上尾市）の4つの大学と包括的連携協定を締結している。こうした連携の背景として、近年、大学の社会的役割が変化してきたことが考えられる。平成18年の教育基本法の改正により、第7条に下記の条文が追加された。大学の使命に、教育、研究に加えて新たに「社会貢献」という第3の使命が加えられたとも言われている。

教育基本法

(大学)

第七条 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

このような背景の中で、自治体と大学との連携は今後の各地域の課題解決にも繋がる突破口になり得るのではないかと考えている。

2 事業の概要

大学生政策提案コンテスト事業は学生が持つ専門的な知識や情報、発想の柔軟性や想像力を活かし、複雑化・多様化する市政のさまざまな課題を解決す

るとともに、学生自らがまちづくりの課題について主体的に調査・研究を行うことを通して、若者の地域社会への愛着とまちづくりへの興味を醸成し、参加意欲の高揚を図ることを目的として、平成26年から実施することとなった。

参加対象は、包括的連携協定を締結している4大学と東武沿線上の6大学（埼玉東萌短期大学、東京理科大学、獨協大学、日本保健医療大学、文教大学、平成国際大学）の合計10大学の学生とし、原則2～5名のグループでの応募を条件とした。

募集内容としては、本市の課題である人口減少対策に向けた取組を学生の視点から提案してもらいたいと考えた。そのため、本事業では春日部市総合振興計画の重点プロジェクトである「人々や事業者から選ばれるまちの実現」に向けて、まちの魅力を高め、定住人口の増加を図る政策提案を募集した。

また、応募からおおよそ半年間の研究を行い、平成26年10月26日の本審査（公開コンペ方式）により選考し、優れた提案は次年度の事業化を目指して事業を進めることとした。

表1に全体のスケジュールを示す。

表1. 平成26年度大学生政策提案コンテスト
スケジュール

期日	内容
5月19日（月）	応募受付開始
6月 8日（日）	春日部市の現状と課題を学ぶ勉強会
6月30日（月）	応募受付終了
7月上旬	1次審査

8月5日(火)	提案事業相談会(市内を巡るバスツアー)
10月19日(日)	本審査(公開コンペ方式)リハール
10月26日(日)	本審査(公開コンペ方式)

このようなスケジュールの中、大学や市関係各課のご協力をいただきながら、本事業が実施された。

3 発表まで

最初に実施した事前説明会「春日部市の現状と課題を学ぶ勉強会」では、4大学8グループ15人の学生が参加し、職員の説明を真剣なまなざしで聞いている姿が見られた。この事前説明会では、提案内容をより充実したものとするため、事業の趣旨、春日部市の現状やまちづくりの主要課題について市職員が講師となり、説明を行った。また、政策提案の一助となるよう市が発行している冊子(総合振興計画概要版、各種計画書、広報かすかべなど)を各グループに1部配布し、市が目指すべき方向性や抱えている問題を示した。

事前説明会終了後には、学生からの質問が相次ぐなど、本事業に対する学生の熱意を感じる事が出来た。



写真1. 春日部市の現状と課題を学ぶ勉強会の様子

参加申込期限である6月30日までに、5大学14グループからの応募があった。各グループの政策提案名等は表2の通りである。

表2. 各グループの政策提案名

No.	グループ名	大学名	政策提案名
1	Messenger	東京理科大学	Let's know 春日部
2	共栄大学観光ゼミ	共栄大学	春日部よるいち
3	Kyoei Next Innovation	共栄大学	大型タウン建設による春日部市人口増加プロジェクト
4	パパ大好きと言われ隊	共栄大学	春日部市をイクメンのまちに～ヒロシ・イノベーションプロジェクト～
5	内田ゼミB	共栄大学	TAKOの街 春日部プロジェクト
6	埼玉東萌短期大学子育て応援チーム	埼玉東萌短期大学	日本一子育てを応援するまちかすかべ
7	チーム文教	文教大学	『ゆうあいのまち』づくり
8	堀井ゼミA	共栄大学	春日部市のひきこもり・ニートの就職支援
9	内田ゼミA	共栄大学	留学生倍増プロジェクトin春日部
10	堀井ゼミd	共栄大学	保育のまち・春日部市を目指して～保育士への支援と人材活用への提案～
11	Let's OT!	埼玉県立大学	Topos kasukabe
12	堀井ゼミcグループ	共栄大学	春日部市にグリーンカーテンを

13	子どものみらい研究会	共栄大学	春日部で育つ・春日部の未来を描く子どもプロジェクト-産官学連携による小学生の“夢育成”事業-
14	春日部に理ノベーションを！	東京理科大学	グルメ特化型広告メディア政策

(応募受付順)

各グループが提案するテーマを春日部市総合振興計画の重点プロジェクトである「人々や事業者から選ばれるまちの実現」の7つの施策（①仕事と子育ての両立支援②市民が主体となったまちづくりの推進③元気な学校づくりの推進④歩いて楽しめる商業環境の整備⑤新たな地域産業の創出と雇用の拡大⑥観光資源の魅力向上と情報発信⑦広報の戦略的な発信）に当てはめると以下の図1のようになる。（申込時点で複数の分野に該当する場合があるため、合計が応募グループ数とは一致しない。）

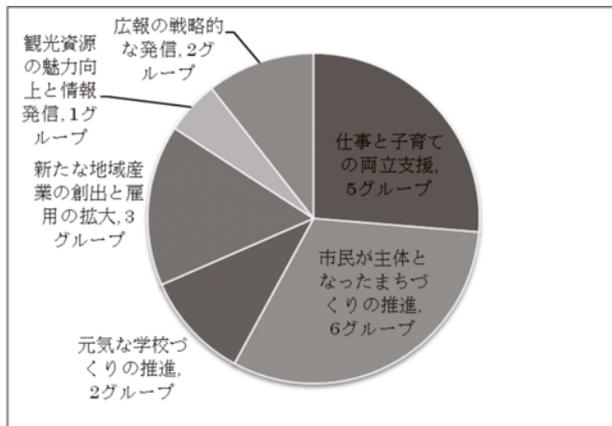


図1. 応募グループの提案する分野

この時点では「①仕事と子育ての両立支援」、「②市民が主体となったまちづくりの推進」で約半数を占めた。

かすかべ未来研究所による一次審査を行い、当初は本審査に出場できるグループを10グループ選考する予定であったが、今回は応募のあった14グループ全てが一次審査を通過することとなった。初年度

ということと、何よりどの提案も甲乙付けがたい内容であったことによるものである。

その後、一次審査を通過したグループに対し、提案内容に関連する担当課職員がアドバイザーとして相談に応じる提案事業相談会を開催した。1グループあたり、学生は最大3名までの参加とし、職員1、2名が相談に応じた。その際、会場のレイアウトも他のグループの相談内容が聞こえないようグループごとの席の間を空ける配慮をした。ここでも、学生からは多くの質問や相談などがよせられ、対応した職員にとっても大きな刺激となった。



写真2. 提案事業相談会で熱心に話を聞く学生の様子

同日午後には、市内の主要施設を実際に見学することで、自らの提案する政策をより身近なものと感じられるよう市内を巡るバスツアーを企画し開催した。見学場所のうち、洪水防止施設である首都圏外郭放水路の展示施設「龍Q館」、春日部情報発信館「ぷらっとかすかべ」、児童館や図書館などの施設をバスで巡り、春日部駅東口近辺の土蔵造りの街並みや、橋と公園が一体となった「古利根公園橋」などは実際に歩いて見学した。その他、産直の里として知られる内牧の梨農家を訪問し、農家の方の声を聞かせてもらう機会も設けた。

市内を巡るバスツアーを開催したことで、机上の理論だけではなく、現状や実情を踏まえた提案に繋

がることを期待した。



写真3. 市内を巡るバスツアーで龍Q館を見学する様子



写真4. 市内を巡るバスツアーで農家の方の説明を聞く様子

本審査の1週間前には、本審査と同じ会場でリハーサルを実施した。なお、グループの発表が他のグループに聞かれることのないように時間帯をずらして、リハーサルを実施したことで、本審査まで他のグループが提案する内容が漏れないように配慮した。また、実際の会場でリハーサルを行うことで、パワーポイントの表示の見え方、発表のスピードやトーンについても考えることができるよい機会になった。

4 当日

本審査当日は、これまでの半年間、研究を重ねた各グループが市民や教員、審査員等の前で、1グループ8分の持ち時間でプレゼンテーションを行った。



写真5. 本審査でプレゼンテーションを行う様子

審査は審査委員長として、本市の政策形成アドバイザーである牧瀬稔氏、外部審査員として、一般財団法人 運輸調査局の松野由希氏、かすかべ親善大使でもある気象予報士の井田寛子氏、内部審査員として、副市長、かすかべ未来研究所所長など総勢8名の審査員により本審査を行った。審査基準は表3のとおりである。

表3. 審査基準

No.	項目	内容
1	的確性	提案された政策は、地域の社会的課題や市民ニーズを的確に捉えたものとなっているか。
2	有効性	提案された政策は、実施することにより、成果・効果が期待できるものとなっているか。
3	独創性	提案された政策は、これまで春日部市が実施していない新たな取組となっているか。

4	発展性	提案された政策は、具体的で実現可能な計画であるとともに発展性があるか。
5	プレゼンテーション・意欲	プレゼンテーションにより提案された内容が十分理解できるとともに、意欲が伝わってくるか。

これらの基準から採点を行い、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞の3つの賞をそれぞれ1グループずつ選考する予定であった。

しかし、発表を終え、いざ審査を行うと難航し、最終的には審査員特別賞を急遽2グループとして、4グループが受賞することになった。

まず、最優秀賞を受賞したのは、「パパ大好きと言われ隊（共栄大学）」による提案「春日部市をイクメンのまちに〜ヒロシ・イノベーションプロジェクト〜」であった。この提案は、イクメン（育児をする男性）を増やし、春日部市を子育てのまちとしてPRしていこうという提案であった。発表方法にもこだわり、スーツ姿が多く見られる中、エプロンを身に纏いながら発表し、会場の視線を集めた。

次に優秀賞を受賞したのは「春日部に理ノベーションを！（東京理科大学）」による提案「グルメ特化型広告メディア政策」であった。この提案は口コミによる広告を狙った提案であった。

審査員特別賞を受賞したのは、「内田ゼミB（共栄大学）」による提案「TAKOの街 春日部プロジェクト」であった。この提案は春日部の地域資源である大凧をPRするプロジェクトであった。

審査員特別賞を受賞したもう一つのグループは「埼玉東萌短期大学子育て応援チーム（埼玉東萌短期大学）」による提案「日本一子育てを応援するまちかすかべ」であった。この提案は空き店舗と子育て支援をつなげた提案であった。以上4つのグループが受賞し、表彰式では、喜びに感極まる場面もあり、会場は暖かい雰囲気の中幕を閉じた。

コンテストの記念写真は広報かすかべ12月号（平

成26年）の表紙を飾ることとなり、受賞した学生たちは自身が表紙を飾った広報かすかべを嬉しそうに手に取ってくれた。



図2. 広報かすかべ12月号の表紙

当日、場内で観覧された方と出場した学生にアンケートを実施した。「このようなコンテストを来年度以降も続けた方が良いと思いますか。」という質問に対し、「はい」と答えた方が33人中31人であった。

また、出場した学生への「春日部市の現状と課題を学ぶ勉強会や提案事業相談会は参考になったか。」という質問に対しても、「参加していない」という学生の回答を除けば、全員「参考になった」との回答を得ることができた。

なお、本審査には46人の学生が参加したが、本審査当日の参加は出来なくても提案内容を考えたり、資料作成を行ったりした学生も数多く、実際の研究グループメンバーは総勢61人に上った。



写真6. 集合写真



写真7. ポスター作成の注意点を聞いている様子

5 実現に向けて

この事業の特徴は、優れた提案は希望学生とともに、次年度の事業化を目指すことにある。

平成26年度に最優秀賞を受賞した提案は、「イクメン講座」として実際に事業化され平成27年度に実施されている。この講座は全4回にわたって開催され、親子料理教室や手品教室、南中ソーランの練習などを実施し、最終回（平成27年12月13日）では、市内の商業施設にあるステージにおいて、参加親子が南中ソーランの踊りを披露した。父親が育児に積極的に参加する姿に、たくさんの買い物客を含む会場は大いに盛り上がった。また、提案した学生たちは、準備段階から市職員と連携して作業を進め、講座のPRポスター作成や最終回ステージでの運営や司会を務めるなど、事業実施に実践的に関わった。学生からは、「当初思った企画が実現できて良かった。」「自分たちの提案した事業が、1年後に事業化できるとは思いもしなかった。」などの感想を聞くことができた。

まさに「えっ！？これってわたしが春日部創れるの！？」と実感してもらえたと考えている。

さいごに

地方創生元年とも言われている本年、自治体間の住民獲得競争もますます厳しいものとなっている中で、本市が「人々や事業者から選ばれるまちの実現」に向けて、未来を担う学生の目線で本市の実施していくべき施策を考え、提案してもらい、その提案を市政に反映させていくことが、魅力あふれるまちづくりに繋がっていくものと考えている。

今年も学生の柔軟性や想像力を活かしたすばらしい政策が数多く提案されることを期待している。

本事業は、関係大学と学生の熱意、それに教員の方々や、地域の皆様の温かいご支援の賜物である。これらの方々へ厚くお礼申しあげ、結びとしたい。

脚注

- 1 春日部市総合政策部政策課内に設置された自治体シンクタンク。推進体制は、所長（総合政策部長）、副所長（政策課長）、研究員（政策課政策推進担当職員）となっている。